

で見つめています。

限りある水を次の世代に引き継いでいくために

◆求められる「3R」の視点

私たちの生活に欠かすことのできない水が、限りある資源であると考えたとき、まずは、資源の無駄使いをしないことが大切です。また、水が自然の水循環の力を借りて、再び私たちの所へ返ってくるようにするためには、自然への負荷を減らすことも大切です。

そのためには、「3R」という視点が大切なキーワードとなります。

「3R」とは、
「Reduce(リデュース)消費を減らす」
「Reuse(リユース)繰り返し使う」
「Recycle(リサイクル)資源を再利用する」

の頭文字をとったものです。もともとは、天然資源の無駄使いをやめ、膨大な量のゴミの発生とその不法投棄、さらには地球温暖化など様々な環境問題を解決し、循環型社会をつくるためのキーワードです。水に苦労してきた高松市だからこそ、水に対してもこの「3R」の視点を取り入れ、水を守っていくことが必要です。

◆一滴の水も無駄にしない生活の知恵

水道が使えるようになるまでは、川や井戸の水が家庭の水源で、水をくんで運ぶのは大変な重労働でした。また、好きなだけ使えるほどの量も確保できませんでした。

そのため、前日のお風呂の湯に、減った分だけ水を加えて入ったり、炊事などで使った後の水を畑の水やりに使ったりしていました。人の生活すべてが自然と共存した中にあり、知恵をばり、一滴の水も粗末にしない工夫が当たり前に行われていました。

そのために、前日のお風呂の湯に、減った分だけ水を加えて入ったり、炊事などで使った後の水を畑の水やりに使ったりしていました。人の生活すべてが自然と共存した中にあり、知恵をばり、一滴の水も粗末にしない工夫が当たり前に行われていました。



節水の知恵袋 おばあちゃんの話

昔 は、それは水を
得るのに苦労したもんじゃ。家の近くに井戸があつて、近所のもみんな使つたから、自由にくめんかった。だから、遠くの川まで、水をくみに行つたり、洗濯をによく行きよつた。

米のとぎ汁や料理の時に一度使つた水も、大切な水だから、掃除に使つたり、花や野菜の水やりに使つたんですよ。コップ一杯の水でさえ、とてもとても大事にしよつたんですよ。

